T2R2 東京工業大学リサーチリポジトリ
Tokyo Tech Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	ポピュラーサイエンス分野の翻訳における評価シフトの研究 ：英語科学雑誌記事の日中翻訳を中心に
Title(English)	
著者(和文)	陳燕
Author(English)	Yan Chen
出典(和文)	学位:博士（学術）, 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10019号, 授与年月日:2015年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:野原　佳代子,中山　実,室田　真男,武井　直紀,亀井　宏行
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10019号, Conferred date:2015/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

Powered by T2R2 (Tokyo Institute Research Repository)

（博士課程）
Doctoral Program

論 文 要 旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間行動システム　　専攻	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士 Doctor of　（　学術　　）
学生氏名： Student's Name	陳　燕	指導教員（主）： Academic Advisor(main)	野原　佳代子
		指導教員（副）： Academic Advisor(sub)	

要旨（和文 2000 字程度）
Thesis Summary（approx.2000 Japanese Characters ）

本研究は翻訳というコミュニケーションにおいて重要な役割を果たす評価表現のシフト（意味のずれ）を研究対象とする。いろいろな種類のシフトがある中で、特に原文にある評価表現と訳文にある評価表現の間に生じるずれを「評価シフト」として特定し、従来の翻訳研究において実証的にほとんど検討されていなかったその実態を把握し記述することを目的とする（「第 1 章 はじめに」）。

翻訳研究における評価表現に関する先行研究の流れ、ポピュラーサイエンスの定義とテキストとしての機能、科学的意味内容のポピュラー化についての先行研究を概観したうえ「ポピュラーサイエンス分野の翻訳において評価シフトは一般的に観察され、また評価シフトは異なる言語ペアにより異なる傾向を見せる」という仮説を立てた（「第 2 章　研究背景」）。

具体的な調査対象、分析及び考察の手法については、上記の仮説を検証するために、英語科学雑誌記事と映像字幕から収集した評価シフトの実例について評価理論を用いて設定した基準にしたがい付加系、削除系、調整系に分類することとした（「第 3 章　評価シフトの特定、調査対象及び分析手法」）。

具体的な分析として、5 つの英文雑誌中 126 篇の記事の日本語訳から評価シフトの実例を収集し、ディスコース分析と翻訳理論によるシフトの記述分析を行い、出現回数を集計した。また、この分野に見られる評価シフトの特徴をより正確に把握できるように、原文における上位 100 位までの形容評価表現の訳について量的及び質的分析を行なった（「第 4 章　評価シフトの概観」）。

次に、特定の言語ペアと評価シフトとの関連性を調べるために、上記 5 つの雑誌の内の 2 つの雑誌中 42 篇の記事の中国語訳からも評価シフトの実例を収集し、日本語訳と比較した。具体的には、日本語訳・中国語訳それぞれの評価シフトの出現頻度および特徴を比較分析した（「第 5 章　評価シフトからみる日中訳の特徴」）。

さらに、特定の媒体と評価シフトとの関連性を調べるため、ポピュラーサイエンス分野のドキュメンタリー映画５本の日本語字幕と､インターネットを介した同分野の映像 28 本の日本語字幕と中国語字幕から実例を集めて、量的及び質的分析をした（「第 6 章　ポピュラーサイエンス映像テキストにおける評価シフト」）。

データの分析から明らかになった日本語訳と中国語訳の間の差異に関わると思われる要因を考察した。評価シフトの方向性を左右する要因はポピュラーサイエンス分野というジャンルにあるか、それが翻訳であるというところにあるか、それともより広い文化・社会的背景の中にあるのかを究明するために、PERC（科学論文コーパス）と、非ポピュラーサイエンスの雑誌記事(政治・経済ジャンル）の原文と訳文の間の比較対照を行った。また訳文と非翻訳（オリジナル）テキストの間の比較対照を行い検討した（「第 7 章　評価シフトに関わる要因分析」）。

最後に本研究で得られた主な結論及び考察を示した（「第 8 章　結論及び考察」）。

下に各章で分析した結論及び要因の考察の結果を示す。

「第４章」と「第５章」の分析を通して、評価シフトは異なる言語ペア（英日訳と英中訳）のポピュラーサイエ

ンスの雑誌記事の翻訳において広く確認されただけでなく、同じ原文からの翻訳であっても、評価シフトの傾向に差異があると確認された。従って仮説は正しいと検証された。具体的には、「第４章」の結果として、ポピュラーサイエンスジャンルでは、付加系、削除系、調整系の 3 種の評価シフトが特定の翻訳者に限定されず一般的に確認される現象であり、学術論文において出現頻度が低い感情評価が削除系および調整系シフトの対象になりやすいことが確認された。「第５章」の結果として、日中翻訳で評価シフトが起こり、しかもその傾向に差異があったと確認された。特に評価極性、主観性、具体性、確実性また文と文の間の繋がり、送り手の立場においてずれが見られた 。

「第６章」の結果として、雑誌記事の翻訳で観察された特徴が映像字幕の翻訳でも共有されていることを確認し、文字数の制限や映像との統合性など映像媒体特有の要素も部分的には評価シフトに影響すると確認された。

「第７章」の結果として、同じ原文からの翻訳であっても、評価シフトの傾向に見られる差異には、言語社会ごとに異なる評価表現使用における言語習慣、実学に対する態度、科学リテラシーレベルという３つが背景として関わっていると考えられる。

「第８章」は本研究から明らかになった主たる 2 点を示す：

①ポピュラーサイエンスにおける評価シフトの実態について、学術的科学論文で出現頻度の低い評価表現が評価シフトの対象になりやすいという特徴を日中が共有しているものの、傾向としては日中は逆の方向に向かい、日本語訳が避けようとする感情的、誇張的、擬人的評価表現を中国語訳は積極的に取り入れていることを明らかにした。

②科学的意味内容のポピュラー化について、翻訳においては評価表現の調整を通して多種のポピュラー化を実現できることがわかり、「科学的内容」と「観点」の割合による新たな整理の仕方を提供した。

ポピュラーサイエンスの翻訳の差異は、中国と日本の間における異なる社会状況を背景として、翻訳者が受け手の属する文化・社会といった広義のコンテクストの状況に合わせ、数あるポピュラーサイエンスの機能の中から取捨選択した結果と考えられる。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。
Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).
注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

（博士課程）
Doctoral Program

論 文 要 旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間行動システム　　専攻	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士　（　学術　） Doctor of
学生氏名： Student's Name	陳　燕	指導教員（主）： Academic Advisor(main)	野原　佳代子
		指導教員（副）： Academic Advisor(sub)	

要旨（英文 300 語程度）
Thesis Summary（approx.300 English Words ）

Shift between the source text and the target text is inherent in translation. Evaluative shift, the shift associated with evaluative expressions, is one kind of such shifts.

The purpose of this study is to reveal the existence of evaluative shifts and its important role in popular science translation. The study is motivated by the observation that evaluative shifts are common phenomena in popular science translation—a genre seems free of, or seems supposed to be free of, evaluative shifts. Based on previous case studies on evaluative shifts (often in fictions and advertisement), the observation suggests the following hypothesis: there are evaluative shifts in popular science translation, and evaluative shifts have different tendencies in different language pairs—English to Japanese and English to Chinese. Specifically, compared to the translation from English to Chinese, evaluative expressions associated with emotion, personification, exaggeration are more likely to be deleted when translated to Japanese. To verify the hypothesis, the author constructed a corpus that consists of evaluative shifts from 128 articles, 5 documentary films and 28 Internet videos. The statistical test supports the hypothesis. The author resorts the explanation of the different tendencies between different language pairs to three aspects that are distinct between Japan and China: customary use of evaluative expressions, historical background on adopting western scientific knowledge, and the level of science literacy.

The construction of the corpus also contributes to the understanding of evaluative shifts. Specifically, the author categorizes evaluative shifts into three types—additional, omitted, and adjusted—and discuss how they affect not just evaluative meaning, but also the structure of articles and the stance of sender (to be a commentator or observer).

Two messages to take away: first, translators are subject to cultural and social factors, and they respond by adjusting the evaluative expressions; second, the resulting evaluative shifts do vary the functions of popular science—conveying scientific contents and the implications, and entertaining readers.

備考 ： 論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。
Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).